科目区分：教職科目Ａ、授業科目：初等家庭科教育法

「初等家庭科教育法」の授業評価

家政教育講座・野中　美津枝

Ⅰ．本授業の概要

本授業は、小学校教員免許取得の必修科目であり、児童を取り巻く生活環境の諸課題を踏まえ、小学校家庭科における授業実践に必要な基礎的な知識と教育実践力を身につけることを目的とする。

授業の概要は、前半は、講義形式で、児童の生活課題の把握、家庭科の意義、家庭科教育の歴史的変遷、家庭科の目標と内容、授業設計、学習指導案の書き方を学習する。後半は、小学校家庭科の単元を割り振り、全員がマイクロティーチングで模擬授業に取り組み実践する。

Ⅱ．授業の工夫点

前半の講義形式では、90 分授業の途中に 2～3 回、討論や作業を入れた。座席指定（各専修バラバラ）のため、1 グループ約 4 人のメンバーは毎回一緒で、必ず自分の意見をグループ内で意見を発言するように促し、前半でグループのコミュニケーションが取れる様にした。

後半のマイクロティーチングでは、全員が模擬授業に取り組み、教壇に立てること、小学校家庭科の内容を全体的に理解できることを目標に授業方法を工夫した。そのため、4 人で 1 グループを基本にして、小学校家庭科 5・6 年生の実習以外の全単元を割り振りし、学習指導案を完成し、授業設計､授業プリントの作成､模擬授業をさせた。教職必修科目で履修者数が例年多く、全員を教壇に立たせるため､4 名の分担は以下の通りとした。

＜マイクロティーチングの方法＞
1 グループ４名の分担（Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ）

Ａ：指導案、授業展開の説明	３分
↓	
Ｂ：模擬授業（導入から）	８分
↓	
Ｃ：模擬授業（展開の一部）	８分
↓	
Ｄ：授業の反省、感想、課題	３分

１回の授業で、１つの単元の模擬授業を２～３グループが実施し、Ａ指導案説明、ＢＣ模擬授業までを各グループ実践後に、Ｄ授業の反省・課題は、最後にまとめて発表させた。そして、各単元で出された課題を当日の討論テーマとして、皆で話し合い考えさせるようにした。

Ⅲ．授業評価法

（1）受講者の出席状況

本授業は、木曜 1 限開講 2 回生の教職必修科目であるが、例年 1 限開講で規定の出席に足らない「評価しない」学生がでるため、3 回生以上の受講者も多く、当初の受講生は 76 名である。15 回授業を終了して、今年度も「評価しない」学生数は 10 名に及び、そのうち 4 名は 1 度も出席をしていない。教職必修であり、教員の心構えとして出席については再三言及し、8 時半の授業開始と授業終了時の 2 回出席確認をしている。「評価しない」10 名を除いた 66 名のうち、29 名が皆勤で 43.9%に達する。各専修の専門科目でなく、冬季の 1 限開講を考えると、出席状況からみると受講者は意欲的に参加したと思われる。

（2）授業評価方法

授業評価の方法は、2 月 17 日の第 15 回の授業参加者に授業アンケートを実施した。回答者は、成績評価対象の 66 名のうち､1 名がインフルエンザによる出席停止のため、65 名が回答をした。授業アンケートは､6 項目の設問に対する授業評価、教育学部ＤＰの向上度の自己評価をそれぞれ 4 段階で回答してもらい、集計結果から考察した。また、授業の自由記述による感想から分析した。

Ⅳ．授業評価

（1）授業アンケートによる授業評価

授業アンケートによる授業評価の結果は、表 1 の通りである。

「Q1 教員の話し方・説明のわかりやすさ」について､+2「とてもわかりやすい」46.2%､+1「ま

表1　授業アンケート結果　N=65 人（%）

設　問		＋2	＋1	－1	－2
Q1	教員の話し方・説明	46.2	50.8	3.1	0.0
Q2	教科書や配布資料等教材	30.8	61.5	7.7	0.0
Q3	授業の進め方	26.2	72.3	1.5	0.0
Q4	授業時間外学習の課題提示	9.2	52.3	38.5	0.0
Q5	授業への意欲	30.8	63.1	4.6	1.5
Q6	授業の満足度	35.4	60.0	4.6	0.0

あまあわかる」50.8%で、合わせると 97.0%がわかりやすいと肯定的に捉えていた。「Q2 教科書や配布資料等教材」については、今年度、「小学校家庭科教科書」「学習指導要領」「小学校家庭科の指導」の 3 冊を教科書として購入させ、配布資料では毎時間授業プリントと提出用ワークプリントの 2 枚を準備したが、＋2「とても適切」、＋1「まあまあ適切」を合わせると 92.3%になり、適切であったと考える。「Q3 授業の進め方」も、＋2「とても適切」、+1「まあまあ適切」を合わせると 98.5%が適切と肯定的に捉えている。

「Q4 授業時間外学習の課題提示」については、+2「多すぎる」9.2%、+1「やや多い」52.3%、-1「やや少ない」が 38.5%で、回答に適当がなかったため、回答欄横に「適当」と書いているものもあったことから、課題への取り組みに差はみられるものの、適当であったと考える。

「Q5 授業への意欲」については、+2「とても意欲的に取り組めた」30.8%、+1「まあまあ意欲的に取り組めた」63.1%を合わせると 93.9%が意欲的に取り組めたと自己評価している。一部出席状況のよくない者もいたが、授業に 43.9%が皆勤していることからも評価できる結果と思われる。「Q6 授業の満足度」についても+2「とても満足」35.4%、+1「まあ満足」60.0%を合わせると 95.4%が肯定的に捉えていた。

（２）教育学部ＤＰの学生の自己評価

教育学部ＤＰについて授業の前と比較して向上度を自己評価してもらった結果、表 2 の通り、いずれも 80～90%が向上したと自己評価している。ただ、最も向上度として期待したＤＰ3 につ

表2　教育学部DPの向上度　N＝65 人（%）

教育学部DP		＋2	＋1	－1	－2
DP1	教科・教職に関する知識・理解	38.5	58.5	3.1	0.0
DP2	学校現場での思考・判断	32.3	61.5	4.6	1.5
DP3	授業の技能・表現	20.0	61.5	18.5	0.0
DP4	実践を省察し，関心・意欲	26.2	64.6	9.2	0.0
DP5	教職に対する態度	23.1	63.1	13.8	0.0

いては、-1「どちらかといえば向上していない」が 18.5%おり、初めての模擬授業に授業実践の難しさや課題を痛感した学生もいたと予想される。

（３）授業の感想（自由記述）から授業評価

記述内容で分類し、実際の記述から授業評価をみることにする。

＜模擬授業の学び＞

・１つの授業をつくる達成感と大変さを学んだ。

・授業をつくるおもしろさと難しさを学んだ。

＜模擬授業の授業方法＞

・指導案から教材、授業展開からいろいろなことを考える時間があり、模擬授業を全員で行う雰囲気があり、本番のような緊張感をもって行えた。

・選ばれた人のみでなく、全員が模擬授業を製作、実践する形態がおもしろい。すごく役立った。

・自分達がつくる過程で学べるだけでなく、児童役に立って評価することで、どちらの立場にも立って考えることができた。

・模擬授業を通して、全ての単元を学ぶことができた。

・同じ単元の班が他にもあったり、授業後に討論をしたりという所で、新たな考えを手に入れることができた。

＜教員の授業（前半の講義）＞

・とても内容の濃い、あきのこない授業だった。

・討論をしたり、自分の考えを書いたりなどただ聞くだけの授業内容でないので、学生にすきを与えることなく、集中して有意義に 90 分過ごせた。

Ｖ．終わりに

教員の醍醐味は「授業づくりの楽しさ」である。本授業を通して、多くの学生が授業づくりの楽しさを少しでも実感してくれたことに感謝したい。